

パーフェクトとしての“-了”と“-過”*

劉 綺 紋

1. はじめに
 - 1.1. “-了”について
 - 1.2. “-過”について
2. タクシスの機能
3. パーフェクトのタイプ
 - 3.1. 状態パーフェクトと動作パーフェクト
 - 3.2. 事象の意味とパーフェクトタイプ
 - 3.3. 時間詞との関係
 - 3.4. “-了”と“-過”とのパーフェクトタイプ
4. 不連続性について
 - 4.1. パーフェクトタイプとの関係
 - 4.2. 動作パーフェクトとの関係
5. おわりに

1. はじめに

1.1. “-了”について

アスペクト助詞“-了”の意味について、従来の研究では2つの対立した考え方が主流である。1つは、例えば“他看了一场電影”という例で示されるように、“-了”が“完成”(〈完了〉や〈完成〉)を表す、とする主張である

* 本稿は日本語学会第121回大会(2000年11月26日、名古屋学院大学)における口頭発表・予稿集をもとに加筆・修正したものである。本稿を修正するにあたり、大阪大学春木仁孝先生より御指導を賜り、多くの貴重な御助言をいただいた。この場を借りて厚くお礼申し上げたい。

(王力 1943-1944: 153; 高名凱 1957: 192; 呂叔湘 1980 など)。それに対し、例えば“他病了”という例に見られるように、“-了”はむしろ“實現”(實現)を表す、というもう1つの主張がある(劉勛寧 1988; 劉月華 1989; 大河内 1992 など)¹⁾。

この“完成”と“實現”という2つの主張は一見対立しているように見える。しかし実は、Smith 1997 の“Two-Component Theory”によって、“Perfective”という〈視点アспект〉の下で統一的な説明を与えることができる。すなわち、次のとおりである。

文のアスペクチュアルな意味は、“situation aspect”(事象アспект)と“viewpoint aspect”(視点アспект)という、それぞれ独立した両者の結合によって伝えられる。Smith は、〈事象(situation)〉を、Stative, Activity, Accomplishment, Achievement, Semelfactive, という5つのタイプに分けている²⁾。また、〈視点アспект〉を、Perfective(完結相), Imperfective(不完結相), Neutral(中立相)という3種類に分けている³⁾。あるタイプの事象があるタイプの視点アспектによって捉えられた場合、その視点アспектは、その事象の全体または一部に焦点を合わせることになる。3つの視点アспектのうち、不完結相は事象の始発点と終結点を除いた、事象の内部に焦点を合わせる。一方、完結相は事象の始発点も終結点も含めて事象全体に焦点を合わせる。但し、完結相はStative(静的な事象)に対してそれ本来の働きを発揮できない。それは、静的な事象には本来始発点も終結点も備わっていないからである。完結相が静的な事象を捉えることができるか否か、また捉えた場合にどのような意味を表すかは、言語によって様々である。しかし、いくつかの言語においては、完結相が静的な事象に変化をもたらす始動的意味を表す(Smith 1997: 69-70)。

さて、中国語において、“他看一場電影”は終結点があらかじめ規定されている事象であり、一方“他病”は静的な事象である。“-了”は、捉えた事象のタイプにより、事象全体に焦点を合わせたり始動的意味を表したりする。それを称して、従来それぞれ“完成”としたり“實現”としたりしてきた。

しかし、そのようなことは中国語の“-了”に限らず、完結相の普遍的特徴なのである。Smith 1997: 266 でも、“-了”は普遍文法の完結相に極めて近い、と述べている。また、既に Яхонтов 1957 でも、“-了”はロシア語の完結相過去に極めて似ている、と指摘している。“-了”は中国語の〈完結相〉であるといえる。

そこで、本稿では中国語の Perfective という視点アспектについて、〈完結〉という用語を使い、中国語学では既に馴染み深い〈完了〉や〈完成〉という日本語の用語を使わない。それは以下の理由による。

まず、〈完了〉という用語は、〈完結相 (Perfective)〉を指したり〈パーフェクト (Perfect)〉を指したりあるいは、単純に〈動作の終わり〉や単なる〈終わりの局面〉という意味として用いられたいように、研究者によってその指示対象が異なるからである。

また、〈完成〉という用語も、Perfective の訳語として使わないこととする。“-了”が、必ずしも〈完成 (completion)〉を表すとは限らないことは、Chu 1976 や Smith 1997: 264 などが既に指摘している⁴⁾。例えば、中国語では、“約翰殺了瑪麗，可是她沒死。”といえることから明かなように、“殺了”は必ずしも完成までを含意しない。それに対し、英語では、*John killed Mary, but she didn't die. がいえないように、killed は完成までを含意する。しかしその原因は、“-了”に帰すべきではなく、中国語の Accomplishment に内在する語彙の意味素性によるものである。なぜなら、“-了”と共起した事象が本来的に完成までを含意するものであるならば、その完成性は文脈によって取り消すことはできないはずだからである。例えば、“*約翰殺死了瑪麗，可是她沒死。”はいえない。それは、“殺死”が完成までを意味するためである。すなわち、英語の Accomplishment に較べると、(結果補語を伴わない)中国語の Accomplishment が含意する完成性が弱いからである。あるいは、完成までを含意する Accomplishment の数についていえば、英語などに較べると、中国語のそれの方がはるかに少ない、ということもある。実際、中国語

の完成はしばしば前掲の例のように結果補語を伴って表現され、“-了”のみで完成を表現できるとは限らない。以上のことから、Perfective の訳語として、本稿では〈完成〉を用いないこととする。

さて、前述したように“-了”は完結相 (Perfective) である。しかし、完結相というだけでは、次の(1)の“答應了”の意味は説明し尽くせない⁵⁾。

- (1) 對於這些事情，後悔已經太遲了，而事實上，後悔或者不後悔，分別也變得不太重要，此刻我坐在咖啡室的一角等夏，我答應了帶他到我工作的地方去參觀，而一切也將在那個時刻結束。

(西西《像我這樣的一個女子》)

(1)を日本語に訳すと、次のようになる。「これらの事について、後悔してももう遅すぎた。事実、後悔するかしないか、その区別はそれほど重要ではなくなった。今この時に、私は喫茶店の片隅に座って夏^かを待っている。彼を連れて私の仕事場へ見学に行くことを、私は承諾していた。そして、すべてのことはその時に終わる。」このテキストにおいて、“答應了”は過去の事象であるが、単なる〈過去の完結相〉を表すのではない。〈私が夏^かを待っている〉という現在の状態を来す原因を説明するために、その過去の事象が振り返って述べられているのである。すなわち、過去の出来事が、現在との係わりにおいて捉えられている。これは「ある状態をそれに先行する事象と関係づけている」(Comrie 1976: 52) という、パーフェクト (Perfect) の意味を表しているのである。

従来、“-了”のパーフェクトについて論じた研究は数も少なく、またその考察も十分とはいえない。先行研究には、例えば Jaxontov 1988, 梁紅 1999 などがある。Jaxontov 1988 では、結果相 (Resultative) としての“-著”を分析する際に、同様な意味を表す“-了”について若干言及するに止まる。また、梁紅 1999 では、同じく結果相としての“-著”と、“-了”とが置き換えられる文について、存現文を中心に論じている。両研究はいずれも“-著”との係わりの中で“-了”のパーフェクトについてふれている。しかし、“-了”

のパーフェクトは、実は“-著”との係わりの中でのみ現れるものではない。そこで、本稿は“-過”との比較を通して、パーフェクトとしての“-了”にアプローチしてみたい。

1.2. “-過”について

“-過”についての先行研究では、“-過”を〈完了〉の“-過”(=過₁)⁶⁾と〈経験〉の“-過”(=過₂)とに分ち、その区別を中心とした研究が多い(孔令达 1986; 刘月华 1989 など)。その中で、最も頻繁に用いられる区分基準は、アスペクト助詞“-了”との共起関係である。

例えば、Chao 1968: 450, 朱德熙 1982: 72, 孔令达 1986, 刘月华 1989 などでは、“過₂”は〈経験〉の意味を表すため、“-了”と共起できないとする。しかしこれに従えば、直ちに(2)のような反例に出会う。

- (2) 小福子第一是長得有點模樣，第二是還有件花洋布的長袍，第三是虎妞以爲她既嫁過了軍官，總得算見過了世面，所以肯和她來往。

(老舍《駱駝祥子》)

先の基準に従えば、(2)の“-過”はいずれも“-了”と共起しているので、必然的にいわゆる完了の“過₁”ということになる。しかし、これらは経験の意味を持っていないと果たしていえるのだろうか。

また、同じこの“過₂”について、孔令达 1986, 龚千炎 1995: 82 など、文末の語気助詞“了”とも共起できないとする。しかし、(3)は経験の意味を全く含まず、いわゆる完了しか意味しない、とは言い切れないだろう。

- (3) 去了大都會博物館，看了一半，他說：「你自己去看吧，我都陪朋友看過四次了。我就在這裡等你，我走不動了，這麼走半天對我來說是個考驗。」

(閻真《白雪紅塵》)

孔令达 1986 ではさらに、経験の“過₂”は“了₁₊₂”⁷⁾や“已(經)”(もう)とも共起できないとする。しかし、(4)-(6)のような例は決して珍しくない。

(4) 什麼委屈都受過了，何必單在這一點上叫真兒呢？

(老舍《駱駝祥子》)

(5) 他已娶過，偷過；已接觸過美的和醜的，年老的和年輕的；但是她們都不能掛在他的心上，她們只是婦女，不是伴侶。

(老舍《駱駝祥子》)

(6) 原來王一生已經來過幾次地區，認識了一個文化館畫畫兒的，於是便帶了我們投奔這位畫家。

(阿城《棋王》)

また、“過₁”と“過₂”とを区別する具体例として、刘月华 1989 では、次の(7)の“-過”を“過₁”とし、(8)の“-過”を“過₂”としている。

(7) 呆了一會兒，他出神地望著我，輕輕地說：「我可以叫你阿娟嗎？」
「你已經叫過了。」我點著頭說。

(8) 爲什麼？——我今早還說過，我願意做你的朋友。

この2例の“-過”が区別される理由は、意味の違いというよりも、むしろ共起成分の違いによるものであると考えられる。すなわち、(7)の“-過”が、“已經”や“了₁₊₂”と共起しているのに対し、(8)の“-過”はこれらと共起していないためである。

しかし例えば、(9)の“-過”は、“已經”や語気助詞“了”と共起しているが、文中に明示されているとおり、経験の意味として用いられている。

(9) 這樣的經驗，他已經受過一次了。

(茅盾《子夜》)

ということは、“過”が“已經”や語気助詞“了”，あるいはアスペクト助詞“-了”と共起しているからといって、それが経験の意味を含まないとは必ずしも言い切れないのである。実際、前掲の数々の例に示されるように、経験の意味を表したり含んでいたりするものも見られるのである。またその逆のこともいえる。(8)のように、“過”がこれらと共起していないからといって、それが経験を表すとも言い切れないのである。

先行研究のように“-過”を完了の“過₁”か経験の“過₂”のいずれかに分けるのであれば、その基準を提示する必要がある。しかし、従来の基準に対

して多くの反証が存在することからも明らかなように、その基準を規定することは困難である。実際、例えば(10)-(12)の“-過”が、“過₁”“過₂”のいずれなのかは、人によって異なる判断を示すだろう。

- (10) 結果很慘，阿山一直想回來，還是我小哥寄錢給他才回來的。有一天他來過我們家，瘦得只剩兩個眼睛仍然亮，像曼菲士。

(朱天文《尼羅河女兒》)

- (11) 那時，我的女友剛剛結婚，……。我女友要嫁以前，還來過一次，她說我的確是個好人，有理想有抱負有品德有正義感，值得信賴，……

(洪醒夫《市井傳奇》)

- (12) 阿青依舊領前，見到有人踩過的路徑便跟下去，結果總是走不了幾十步，便斷了蹤跡。

(劉大任《浮游群落》)

また、次の(13)は刘月华 1989 が経験の“過₂”の例として挙げた文である。しかし、これが果たして経験といえるかどうかは疑問である。

- (13) 兩天前還飄過一陣小雪……

一方、以上の先行研究とは対照的に、Smith 1997 は“-過”を2つに分けていない。そして、その視点アスペクト、テンポラルの意味、〈文の事象アスペクト〉に与える影響を分析し、“-過”を含む文はパーフェクト構造(Perfect construction)の本質を持つことを明らかにした。そして、パーフェクトの下で経験の意味も完了の意味も表しうるとしている(p.269)。

劉綺紋 2000b では、Smith 1997 を踏まえた上で、タクシスという機能意味論的範疇を用い、パーフェクトとしての“-過”の意味を一層明確にした。本稿では、“-過”とパーフェクトとしての“-了”との異同について分析する。

その方法として、まず§2.でタクシスの機能を分析することにより、“-了”は、単なる完結相のみならず、文脈によってはパーフェクトとしても機能することを明らかにする。次に§3.では、“-了”と“-過”とのそれぞれのパーフェクトタイプについて考察する。そして§4.では、パーフェクトと

しての“-過”と“-了”との相違を不連続性にあると捉え、その有無により、それぞれが使用される文脈について分析する。

2. タクシスの機能

タクシス (taxis) という用語は、Jakobson 1957 によって最初に提案された。それによれば、「発話にかかわらずに、ある語られた出来事をもう1つの語られた出来事と関連させて特徴づける」ことである。その際まず考慮されているのは、〈同時〉〈先行〉〈後続〉という、事象間の時間順の相互関係である (Jakobson 1957: 46; 51-52)。

その後、Маслов 1978 が、「多くの言語ではタクシスは特別な文法範疇としてあらわれず、ある場合はテンス、ある場合はアスペクトとともにひとつの組み合わせられた範疇のわく内に統合される」とし、さらに「いくつかの言語ではタクシスの諸関係の表現は動詞アスペクトのもっとも重要な機能のひとつと見なされる」と指摘した (いずれも菅野訳)。それは、次のようなことである。完結相 (Perfective) の意味を持つ形式の連続は、事象間の〈継起性〉を表す。不完結相 (Imperfective) の意味を持つ形式によって、他の事象との〈同時性〉を表す。パーフェクト (Perfect) の意味を持つ形式によって、他の事象に対する〈後退性〉を表す。つまり、アスペクトが異なればテキストにおいて果たすそのタクシスの機能も異なる、ということである。

このような議論を受け、工藤 1995 は、日本語のタクシスの機能を分析することにより、〈継続相〉シテイル・シテイタや〈完成相〉シタが、場合によってはパーフェクトとして機能することを明らかにした。劉綺紋 2000b では、工藤 1995 に倣って、タクシスに着目し、“-過”はパーフェクトの機能を担うことを明らかにした。それをまとめると、以下のようになる。

例えば、次の(14)と(15)を比較してみる。

- (14)a. 他進了大門，一直奔了小福子的屋子去。顧不得敲門，顧不得叫一聲，他一把拉開了門。一拉開門，他本能的退了回來。

（老舍《駱駝祥子》）

- b. 事象の記述順：進了大門→奔了→拉開了門→退了回來
c. 事象の発生順：進了大門→奔了→拉開了門→退了回來

- (15)a. 孫一上台，就像日本人那樣鞠了一個九十度的躬，說：「各位父老兄弟們……」他講得精采極了，他受過這一類的專門訓練。

（黃凡《賴索》）

- b. 事象の記述順：一上台→鞠了一個躬→說→受過這一類的專門訓練
c. 事象の発生順：受過這一類的專門訓練→一上台→鞠了一個躬→說

まず、(14b)と(14c)とが完全に対応していることから明らかなように、(14)では、事象の発生順と、事象の記述順とが一致している。これらの“-了”によって捉えられた事象は、時間的流れに沿って次々に前進していく、という継起性を表すのである。すなわち、“-了”が(14)において担っているタクシスの機能は、完結相のタクシスの機能である。

一方、(15b)と(15c)との関係から明らかなように、“他受過這一類的專門訓練”は、記述順としては最後にあるにもかかわらず、発生時間順としては他の事象よりも前にあり、時間的に後退している。すなわち、“-過”は後退性を表しており、それはパーフェクトのタクシスの機能である。

さらに、劉綺紋 2000b では挙げなかったが、例えば(16)のような例においては、複数の事象を“-過”によって捉えている。しかし、それらは継起性を示しておらず、その点で複数の事象を“-了”によって捉えている(14)とは対照的である。

- (16) 幹這些營生所應有的資格與本領——力氣，心路，手段，交際，字號等等——劉四爺都有。在前清的時候，打過群架，搶過良家婦女，跪過鐵索。

（老舍《駱駝祥子》）

(16)を日本語に訳すと、次のようになる。「これらの渡世に必要な資格と本

領すなわち腕力，才能，手段，交際，名声などは全部彼に備わっていた。清朝の末期には哥い連のなぐり込みにも加わり，良家の婦女を拉致したこともあり，鉄索の上にひざまずかされて拷問されたこともあった。」⁸⁾ (16)においてこれらの“-過”によって捉えられた事象は，継起的な事象として表現されていない。これらの事象間の互いの時間関係ははっきりしておらず，参照時に対して一斉に時間的に後退していることのみが表されている。すなわち(16)も(15)同様，パーフェクトのタクシスの機能を果たしているのである⁹⁾。

以上のように，“-過”がパーフェクトを表すことは明白である。次に，“-了”についてタクシスの機能の分析を行い，その意味を明らかにする。

前掲(14)では“-了”が継起性を表していた。しかし，次の(17) (= (1))の“答應了”は継起性を表していない。

(17)a. 對於這些事情，後悔已經太遲了，而事實上，後悔或者不後悔，分別也變得不太重要，此刻我坐在咖啡室的一角等夏，我答應了帶他到我工作的地方去參觀，而一切也將在那個時刻結束。

(西西《像我這樣的一個女子》)

b. 事象の記述順：等→答應了

c. 事象の発生順：答應了→等

(17b)と(17c)との関係から分かるように，“答應了”は，“等”の次に述べられているにもかかわらず，発生の時間順としては“等”よりも後退している。すなわち，“-了”が(17)において担っているタクシスの機能は後退性であり，これは(15)(16)同様，パーフェクトのタクシスの機能である。

従来の研究では，文脈を切り捨てた文を使って“-了”の分析を進めてきた。その結果，“-了”の意味を垣間見ることはできても，その全体像が見えてこなかった。ここでは，タクシスの意味を分析することにより，“-了”は，テキストの中で，(14)のように時間的継起性を表して完結相として機能する場合と，(17)のように時間的後退性を表してパーフェクトとして機能す

る場合とがあることを明らかにした。

次に、パーフェクトの意味について確認しておく。パーフェクトの定義は、Smith 1997: 106-108によれば、基本的には以下のとおりである。1) テンポラルの意味において、参照時 (Reference Time 略称 RT) を有し、しかも事象時 (Situation Time 略称 SitT) が参照時に先行すること¹⁰⁾。2) パーフェクト構造は〈結果的狀態の価値 (resultant stative value)〉を有すること。但しそれは、直接的な〈結果狀態 (final state)〉が参照時まで続くという意味ではないし、またその必要もない。3) その視点アスペクトが完結相であること。4) 現在パーフェクトの文における主語 (subject) は、先行事象に対して参加者性 (participant property) を有すること。

この定義によれば、パーフェクトの視点アスペクトは、基本的には完結相であるということである。前掲の用例を振り返って見てみると、(15) “他受過這一類的專門訓練”，(16) “打過群架，搶過良家婦女，跪過鐵索”，(17) “答應了”はいずれも事象の内部にふれておらず、ひとまとまりの事象として捉えられている。つまり、これらの例に示されている中国語のパーフェクトも完結相の視点アスペクトを有するのである。

しかし、事象がひとまとまりに捉えられた場合は、その時間順が継起性を示すことになるはずである。ところが、パーフェクトは継起性を示さない。それは、パーフェクトが完結相の視点アスペクトを有する一方で、事象に対する捉え方が単なる完結相とは異なっているということの意味する。以下に、再度前掲の例文を用いて、パーフェクトの、事象に対する捉え方について考える。

(15)において、参照時の状況〈彼の演説が精彩を放っていたこと〉の原因として、〈彼がこの種の専門的訓練を受けていた〉という先行事象が説明的に述べられている。また(16)においては、“劉四爺”が参照時に有する属性〈これらの渡世に必要な資格と本領が全部彼に備わっていたこと〉が、〈哥い連のなぐり込みにも加わり、良家の婦女を拉致したこともあり、鉄索の上に

ひざまずかされて拷問されたこともあった」という先行事象を挙げることによって根拠づけられている。そして(17)においては、参照時の状態〈私が喫茶店で夏という人を待っていること〉の理由として、先行事象〈私が承諾していたこと〉を述べることによって補足している。

すなわち、いずれもその参照時の状態・属性を説明したり確認したりするために、その原因として作用したり何らかの関連性を持っていたりするある先行事象が述べられているのである。そして、参照時の状態・属性についての情報を、先行事象を振り返って述べることによって説明したり補足したりしている。結果的に、先行事象が参照時の状態・属性に組み入れられ、その原因・理由としての前提要素となっているのである。このような参照時の状態・属性の前提となる先行事象が、パーフェクトを用いて述べられている。つまり、パーフェクトは、先行事象をその中に含んだ1つの状態・属性を述べる、ということができる¹¹⁾。

このような意味を持つからこそ、パーフェクトによって捉えられた事象は、後続する参照時の状態・属性に関与しており、参照時において何らかの効力を持っている、といわれるのである (Comrie 1976; Маслов 1984; 工藤 1995)。また、パーフェクト構造は〈結果的状态の価値〉を持ち、パーフェクトが用いられた場合、その文全体が静的事象のアスペクティックの意味を有し、状態を表すことになる、とされるのである (Smith 1997)。

以上のように、パーフェクトが完結相の視点アスペクトを有する一方で継起性を示さないのは、パーフェクトによって捉えられる事象が、テキストの時間軸となる参照時に対して、時間的に先行している前提要素として述べられるからである。

パーフェクトの例とは対照的に、前掲(14)において、“-了”によって捉えられた事象はいずれも、後続状態との因果関係や関連性を何ら示さない。それは、その事象が何らかの状態・属性の前提要素として捉えられておらず、単純に過去における事象として捉えられているにすぎないからである。

このように、パーフェクトと単なる完結相とが、テキストにおける時間順的關係を異にするのは、その事象に対する捉え方を異にするからである。

次に§3.では、“-了”と“-過”とのパーフェクトタイプについて考察する。

3. パーフェクトのタイプ

3.1. 状態パーフェクトと動作パーフェクト

パーフェクトには2つの要素が含まれている。1つは、参照時をその中に含んだ〈後続状態・属性(略称〈後続状態〉)〉である。もう1つは、その前提となる〈先行事象〉である。そこで Maslov 1984 では、パーフェクトをその焦点の置き方により〈状態パーフェクト (Statal Perfect)〉と〈動作パーフェクト (Actional Perfect)〉という2つの基本的タイプに分けている¹²⁾。両者の違いについて、Maslov 1984 では次のように述べている。

まず、状態パーフェクトは次のようである。「もしも後続の時間的平面に重点が置かれているならば、先行の変化、本来の意味での動作に条件づけられたなんらかの状態(あるいは静的関係)が問題となっている」意味を表すパーフェクトである。それに対し、動作パーフェクトは次のようである。「もしも2つの時間的平面のうち先のものに重点が置かれているならば、普通関心の中心にあるものは、自身の後にあれこれの痕跡、結果を残す動作、なんらかの特殊な状況を作る動作、簡単に言えば後続の時間的平面にとってあれこれの点で顕在的であり、後続の時間的平面の観点から観察される動作である」ことを意味するパーフェクトである(いずれも菅野訳)。

つまり、パーフェクトの2つの要素のうち、その焦点を後続状態に置くならば、それは状態パーフェクトである。それに対し、その焦点を先行事象に

置くならば、それは動作パーフェクトである。このような焦点の置き方の違いにより、それぞれの後続状態の質も異なる。

後続状態が前景に押し出されて焦点となった場合は、その後続状態は、先行事象の直接的かつ必然的結果として生じた顕在的状态でなければならない。一方、先行事象が前景に押し出されて焦点となった場合は、後続状態が背景に押しやられ、その存在は目立たない。この場合、その後続状態は、顕在的である必然性がなくなり、潜在的で間接的で偶然的な何らかの影響・形跡・効力が働いている状態でもよいのである。

本稿では、顕在的直接的必然的な後続状態を〈結果状態〉と呼び、それに對し、潜在的間接的偶然的な後続状態を〈広い意味での結果としての状態〉と呼ぶ。まず、結果状態の例として、例えば“她穿了一雙馬靴”（彼女はブーツを履いている）における、彼女がブーツを履いてから脱ぐまでの間、〈足にブーツを履いている状態〉や、“路上死了一隻貓”（路上に猫が死んでいる）における、〈路上に存在する猫が死んでいる状態〉などがそうである。これらの状態は先行事象〈ブーツを履くこと〉〈路上で猫が死ぬこと〉から必然的に生じる、直接的で顕在的に保たれている結果状態である。

次に、広い意味での結果としての状態の例として、前掲(15)を用いて説明しよう。この例において、参照時がその中に位置するのは、〈彼の演説が精彩だった〉という状態である。この状態をもたらす理由として、〈彼がこの種の専門的訓練を受けていた〉という先行事象が補足説明的に述べられている。しかし、考えてみれば、専門的訓練を受けていたからといって、参照時に行われた演説が必ずしも立派になるとは限らない。いくら訓練を受けてもスピーチが一向上手にならない人もいる。またたとえ演説の技術が上達したとしても、参照時のコンディションのせいでは立派な演説ができなかった、ということも起こりうる。すなわち、〈演説が精彩を放っていた〉という状態は、〈専門的訓練を受けたこと〉の結果状態といえず、それはむしろある種の潜在的な結果であり、広い意味での結果としての状態なのである。

他には例えば、次の(18)(19)に示されているような参照時の状態も、先行事象の、広い意味での結果としての状態であるといえる。(18)は話し手の主張・考え方を裏打ちするために、傍証となる昔の有名人(この例では、ビスマルク)の名言を引用したものであり、(19)はフラッシュバックという技法である。参照時の状態は、いずれも先行事象の必然的な結果ではないし、また、その先行事象がもたらした何らかの影響が参照時に及んでいる、ということもいえない。両者の関係は実に漠然としたものである。その後続状態と先行事象との関連性は、参照時の状態との係わりにおいて先行事象を述べることによって、その先行事象を参照時に関係づけたものである。

(18) 那幾個新派到安南或中國租界當警察的法國人，正圍了那年輕善撒嬌的猶太女人在調情。俾斯麥曾說過，法國公使大使的特點，就是一句外國話不會講；這幾位警察並不懂德文，居然傳情達意，引得猶太人格格地笑，比他們的外交官強多了。 (錢鐘書《圍城》)

(19) 岳母道：「我想到阿新，心這裏，會痛……」

很久以前的荒唐事，必定也讓岳母痛心過。他是在小玫出生一個月以後，才出現在他們母女前面，接他們回臺北去住，岳母站在門口目送他們離去，那雙馴良和平如牡鹿般的眼睛，看著他，好像在說：「好好對待我的女兒吧。」 (朱天文《炎夏之都》)

以上に述べてきたように、状態パーフェクトとして捉えるためには、参照時における後続状態が、先行事象と緊密な因果関係を示す〈結果状態〉でなければならない。それに対し、動作パーフェクトとして捉えるためには、参照時における後続状態は、緊密な因果関係を示す〈結果状態〉から、何らかの影響や効力という間接的な因果関係や、因果関係と称せない程の漠然とした関係を示す〈広い意味での結果としての状態〉まで、実に様々である。

換言すれば、参照時に〈結果状態〉が存在している場合、状態パーフェクトと動作パーフェクトという2つの捉え方がある。そして、参照時に〈広い意味での結果としての状態〉が存在している場合は、動作パーフェクトと

いう1つの捉え方のみが可能である。

3.2. 事象の意味とパーフェクトタイプ

次に、事象に内在するアスペクトの意味と、パーフェクトタイプとの関係について述べる。

前述したように、状態パーフェクトは事象の結果状態を捉える。そして、結果状態は、事象の〈変化〉を前提とする (Maslov 1984)。ということは、状態パーフェクトとして捉えるためには、その事象に変化という意味成分が内在しなければならないのである。“我看”(私は見る)のような必然的終結点が規定されていない非限界的事象はもとより、たとえ“我看一場電影”(私は映画を一本見る)や“我看他一眼”(私は彼を一目見る)のような必然的終結点が規定されている事象でも、それらは変化が起きず、結果状態を生じないため、やはり状態パーフェクトとして捉えることができない¹³⁾。このように、状態パーフェクトは事象アスペクトの意味に制約されるのである (Maslov 1984; Maslov 1988; Nedjalkov & Jaxontov 1988)。

一方、動作パーフェクトは先行事象を捉える。その後続状態は、結果状態でも、広い意味での結果としての状態でもよい。従って、事象が完結した後結果状態を生じても生じなくても、すなわちその事象に変化が内在してもしなくても、動作パーフェクトとして捉えることができる。つまり、事象の意味にかかわらず、動作パーフェクトとして捉えることができるのである。このように、動作パーフェクトは事象アスペクトの意味に制限されないのである¹⁴⁾ (Maslov 1984; Maslov 1988; Nedjalkov & Jaxontov 1988)。

以上のことから、事象に内在するアスペクトの意味とパーフェクトタイプとの関係について、変化の有無つまり結果状態を生じるか否かという側面から、次のようにいうことができる。

結果状態を生じるような、変化が内在する事象は、参照時の状態の前提と

なる先行事象に焦点を置き、動作パーフェクトとして捉えられることもある。また、参照時をその中に含んだ結果状態に焦点を置き、状態パーフェクトとして捉えられることもある。例えば、“猫死”(猫が死ぬ)や“她穿一雙馬靴”(彼女がブーツを履く)はこのような事象である。“猫半年前死了”(猫は半年前に死んでいる)は、猫が死んだ時間(事象時)と共に起ることによって、先行変化を述べることに焦点が置かれ、動作パーフェクトとして捉えられている。それに対し、死体を目の前にして、“這隻貓死了”(この猫は死んでいる)という眼前の状態を述べる場合や、“路上死了一隻貓”(路上に猫が死んでいる)というある場所に存在する状態を述べる場合は、状態パーフェクトとして捉えられているのである。また例えば次の(20)の“她已斷了氣”は、〈彼女が生きている→彼女が死んだ〉という、参照時(降ろした時点)に先行する変化を述べることに焦点を置かず、あくまでもその降ろした時点に観察された〈彼女は息がない〉という眼前の状態を述べることに焦点を置いている。これは、動作パーフェクトではなく、状態パーフェクトの意味を表しているのである。

(20) 「……。馬上老叉桿派人四處去找，哼，一進樹林，她就在那兒掛著呢。摘下來，她已斷了氣，可是舌頭並沒吐出多少，臉上也不難看，到死的時候她還討人喜歡呢！……」
 (老舍《駱駝祥子》)

「……。檀那は時を移さず方々に人を出して捜さしたんだ。すると林に入るやいなや、あの娘はそこで首を吊とつたんだ。降ろしてみたがもう息の根は止まっとつたよ。しかし、舌はそんなに長く出ておらず、顔もそんなに見苦しくはなかった。死に際まであの娘は人様を喜ばせるといった気立てだったんだね。……」

(中山高志(訳)『駱駝祥子』(東京：白帝社，1991))

一方、変化せず結果状態を生じない事象は、その後続状態としては、広い意味での結果としての状態しかありえないため、動作パーフェクトとしてしか捉えられない。例えば、前掲(1)“答應”(承諾する)、(15)“受訓練”(訓練

を受ける), (18) “説” (言う), (19) “痛心” (心を痛める) などの事象がそうである。また例えば, “出事” (事故に遭う) のような事象もそうであり, “他昨天早上出了事” (彼は昨日の朝に事故に遭っている) はもちろん, “路上有人出了事” (路上で誰かが事故に遭っている) なども動作パーフェクトとして捉えられる。

§ 2. では, パーフェクトはタクシスの後退性を示す, ということを述べた。しかし厳密には, 後退性を示すのは動作パーフェクトである。状態パーフェクトは, 後退性を示さずに〈同時性〉を示すのである。つまり, 状態パーフェクトは, 不完結相と同じタクシスの意味を示すのである。動作パーフェクトと状態パーフェクトのタクシスの意味が異なるのは, それぞれの焦点の当て方が異なるからである。動作パーフェクトは, 参照時の状態・属性をもたらした原因・理由などの前提となる, 時間的に先行している事象に焦点を当てる。それに対し, 状態パーフェクトは先行事象に由来する, テキストの時間軸に位置する, 参照時の状態・属性に焦点を当てるのである。

このように, 動作パーフェクトと状態パーフェクトとは, その焦点を置く時間的平面が異なるため, 参照時における後続状態の質も, 先行事象に内在する意味も, さらに, タクシスの意味も異にするのである (Маслов 1984; Maslov 1988; Nedjalkov & Jaxontov 1988)。

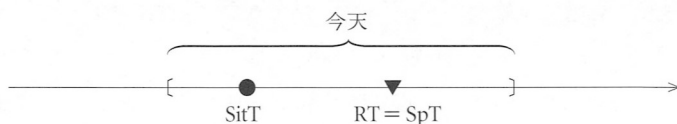
3.3. 時間詞との関係

次に, 動作パーフェクトと状態パーフェクトにおける, 時間を直示する時間詞との関係を見てみる。

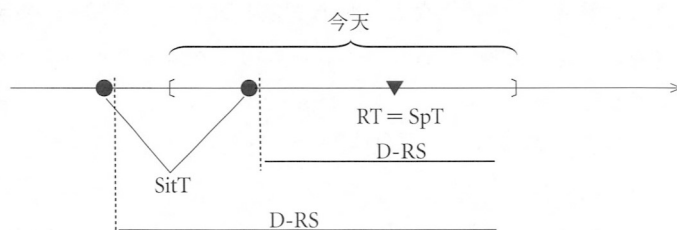
例えば, “今天” (今日) という $RT = SpT$ (発話時) を含む時間帯と共に起した場合, “今天他受過訓練” という動作パーフェクトの文においては, $RT = SpT$ も, それに先行する $SitT$ (訓練を受けた時間) も, 〈今日〉という時間帯に含まれる。それに対し, 例えば状態パーフェクトとしての “今天他戴了一頂

假髮” (今日彼はカツラをかぶっている) という文は、〈今日〉に含まれている RT = SpT が、結果状態 (彼がカツラをかぶっている状態) の中に位置することを表す。それに先行する SitT (彼が頭にカツラをかぶった瞬間) は、今日中でもいいし、今日より以前でもいい。それが必ずしも〈今日〉に含まれる必要はないのである。また、それに対応してその結果状態 (D-RS) の始まる時間も〈今日〉でなくてもよく、それより以前かもしれない。以上のことを図式化すると、(21a)(21b)のようになる。

(21)a. “今天他受過訓練” (動作パーフェクト):



b. “今天他戴了一頂假髮” (状態パーフェクト):



では、時間的幅が短い時間詞“現在”(いま)と共起した場合はどうだろうか。中国語の“現在”は、発話時を含む現在直前から現在直後までの時間を示す。状態パーフェクトの文“現在他戴了一頂假髮”において、〈彼がカツラをかぶっている〉という結果状態の中に“現在”(RT = SpT)が位置することになる。

一方、“??現在他受過訓練”はそれだけでは不自然に感じる。それは、“現在”が示すのは、RT = SpT でもあり、それに先行する SitT でもあるので、論理的に矛盾するからである。ところが、それを“現在他已經受過訓練”や

“現在他受過訓練了”のように、時間副詞“已經”(もう)¹⁵⁾や語気助詞“了”¹⁶⁾などを付け加えると自然な文になる。それは、それらの成分により、“現在”が $RT = SpT$ のみに限定され、 $SitT$ を示さないことになり、そして、 $SitT < RT = SpT$ という時間的關係を表すようになるからである。

3.4. “-了”と“-過”とのパーフェクトタイプ

中国語の動作パーフェクトには、例えば、前掲(15)“受過訓練”や、(16)“打過群架，搶過良家婦女，跪過鐵索”のような“-過”によって捉えられるものもある。また、(17)“答應了”のような“-了”によって捉えられるものもある。それらはいずれも、参照時の状態・属性の前提となる〈先行事象〉であり、それぞれのテキストにおいてタクシスの後退性を示している。

一方、中国語の状態パーフェクトの例として、前掲(20)の“斷了氣”の他に、以下の(22)–(25)のようなものがある。下線部はいずれも、参照時をその中に含んだ〈結果状態〉であり、それぞれのテキストにおいてタクシスの同時性を示している。

(22) 下午我經過她門口，看見她穿了一身藍布衣褲，頭上繫了一塊舊頭巾，站在凳子上洗窗戶。
(白先勇《一把青》)

(23) 她靜等敦鳳發問，等了片刻，瞟了敦鳳一眼。敦鳳曾經有過一個時期對楊太太這些事很感到興趣，現在她本身的情形與前不同了，已是安然地結了婚，對於婚姻外的關係不由得換了一副嚴厲的眼光。
(張愛玲《留情》)

(24) 舞臺下排了一列列木椅，供持有選票的顧客坐著觀賞。
(曾心儀《彩鳳的心願》)

(25) 我趕到朱青那兒，裏面已經黑壓壓擠滿了一屋子的人。
(白先勇《一把青》)

これらの“-了”は、時間軸上を遡った先行事象に焦点を置いているのでは

なく、先行事象を前提として参照時の状態を述べることに焦点を置いているのである。つまり、“-了”は、完結相として機能して継起性を表す場合と、動作パーフェクトとして機能して後退性を表す場合と、これらの例に示されているように、状態パーフェクトとして機能して同時性を表す場合とがあるのである。

また、状態パーフェクトには、以上の例に見られるように“-了”によって捉えられるものは多いが、“-過”によって捉えられるものが見当たらない。それは、“-了”が状態パーフェクトを表せるのに対し、“-過”が状態パーフェクトを表せないからである。

そこで、〈変化〉が内在する事象・内在しない事象それぞれが、“-了”や“-過”と共起した場合のパーフェクトタイプについて、以下のようにまとめることができる。

変化が内在する事象は、§ 3.2.で述べたように、状態パーフェクトとしても動作パーフェクトとしても捉えることができる。だから、“-了”と共起した場合は、状態パーフェクトとして現れたり動作パーフェクトとして現れたりするのである。一方、“-過”は動作パーフェクトしか表せないのので、たとえ変化が内在する事象でも“-過”と共起した場合は、動作パーフェクトとしてしか現れない。

また、変化が内在しない事象は本来、動作パーフェクトとしてしか捉えられないので、“-了”と共起しても“-過”と共起しても動作パーフェクトとしてしか現れないのである。

ここで、この動作パーフェクトと状態パーフェクトに関して、若干の指摘をしておきたい。

Nedjalkov & Jaxontov 1988: 37によれば、中国語は動作パーフェクトを持たず、状態パーフェクトしか持っていない言語であり、従って、状態パーフェクトと動作パーフェクトとの意味が1つの形式を共有するという問題は当然起こらない、としている。しかし、以上で見たように、“-過”も“-了”

も動作パーフェクトを表すことができる。しかも、“-了”という形式はこの2つのタイプのパーフェクトの意味を表すことができる。

また、梁紅 1999 では、“-了”を動作パーフェクトの形式とし、“-著”を状態パーフェクトの形式とする。確かに“-著”は状態パーフェクトを表せるが、しかし“-著”で表せる状態パーフェクトは、実は中国語の状態パーフェクトの一部分にすぎない。その証拠に、“-著”で表せないような状態パーフェクトを、“-了”によって表すことができる。例えば、(20)“斷了氣”，(23)“結了婚”，(25)“擠滿了”や、状態パーフェクトとしての“這隻貓死了”や、“家裏來了一個陌生人”“店裏到了幾位貴賓”などがそうである。“-著”で表せない状態パーフェクトが多いのは、“-著”の使用に関して語彙などの制約があるからである。この点については、劉綺紋 2002 (印刷中)で考察する。

Маслов 1978 によれば、結果状態の意味はしばしば限界的な事象の完結を示すことに基盤を置いている。一方、事象の完結もまた、その事象の結果状態を示すことによって意味しうる、とする。Маслов 1984 ではさらに、状態パーフェクトと動作パーフェクトとの区別は意味的であり、必ずしも形式を異にするとはいならず、一致することもありうる、という。実際、中国語について考えてみると、“-了”は、場合によっては動作パーフェクトとして現れ、また場合によっては状態パーフェクトとして現れる。この点で、“-過”パーフェクトとは対照的である。

次に、§ 4. では、“-了”と“-過”とのこのような違いについて考察する。

4. 不連続性について

4.1. パーフェクトタイプとの関係

“-過”と“-了”との決定的な違いは、不連続性の有無による違いである。〈不連続性 (discontinuity)〉とは、結果状態が参照時までには終了していなければならない性質である。結果状態を生じる事象が“-過”と共起した場合、“-過”の不連続性の働きにより、参照時までにはその結果状態が終了していることになる (Smith 1997: 266)。これは、参照時における結果状態を捉える状態パーフェクトとは論理的に矛盾する。“-過”が状態パーフェクトを表せないゆえんである (劉綺紋 2000b)。一方、“-了”が状態パーフェクトも表せるのは、不連続性に制約されないからである。“-了”が先行事象の完結を表せるのみならず、結果状態が参照時においても存在している可能性を否定しないため、文脈の焦点の置き方次第で、時には先行事象に焦点を置き動作パーフェクトとして、また時には結果状態に焦点を置き状態パーフェクトとして現れるのである。

前述したように、パーフェクトは先行事象をその中に含んだ1つの状態・属性を述べる。§4.では、不連続性が、そのパーフェクトの表す状態・属性に対してどのような影響をもたらすかについて考察する。

まず、“-了”の状態パーフェクトと“-過”の動作パーフェクトの例を見る。それぞれ(26)(27)がそうである。

- (26) (楊太太) 瀟灑地笑道：「我自己說著笑話，桃花運還沒走完呢！」
她靜等敦鳳發問，等了片刻，瞞了敦鳳一眼。敦鳳曾經有過一個時期對楊太太這些事很感到興趣，現在她本身的情形與前不同了，已是安然地結了婚，對於婚姻外的關係不由得換了一副嚴厲的眼光。

(張愛玲《留情》)

(楊夫人は) くったくなく笑った。「冗談みただけど、あたしにはね、まだ色運が残っているのよ」そう言ったまま、敦鳳がなにか聞いてくれるのを待っている。しばらくして、ちらっと敦鳳を見た。敦鳳は一時期、楊夫人のこの種のことにとても興味をもっていた。しかしいまは自分自身の状況もかわり、ちゃんと結婚もしているので、不倫の関係に対しては知らぬ間に厳しい視線に変わっている。 (池上貞子(訳)「留情」(『傾城の恋』東京：平凡社、1995))

- (27) 「大概據我這麼猜呀，出不去兩條道兒：不是教二強子賣給人家當小啊，就是押在了白房子。哼，多半是下了白房子！怎麼說呢？小福子既是，像你剛才告訴我的，嫁過人，就不容易再有人要；人家買姨太太的要整貨。……」 (老舍《駱駝祥子》)

「どうもわしの考えじゃね、二つしか道はねえよ。もし親爺に売り飛ばされてお妾さんになっていなきや“白房子”へ流れ込んでいるんだ。ふん、大方“白房子”だろう。どうしてだって。その女は、お前さんも今言ったように、一度お輿入れをしたことがあるだろう。そんな中古は、誰だっておいそれとは手を出さんよ。お妾さんをもらうにしても生娘のほうがいいんだからな。……」

(中山高志(訳)『駱駝祥子』(東京：白帝社、1991))

この2例が取りあげている事象“結婚”“嫁人”は、〈結婚式を行う〉という意味として用いるのでない限り、瞬間的に成立する点的事象を意味する。その事象の成立によって生じる〈結婚している結果状態〉は、通常すぐには終わらない、安定した状態である。この点で、同じく点的事象である“去(書店)”(本屋に行く)などとは性質が異なる。また、〈結婚している結果状態〉は必ずしも永続するとは限らず、終わらせることが可能である。この点で、同様に点的事象に属する“死”(死ぬ)とも性質を異にする。

この2例において、いずれも結婚する事象が以前に成立し、そこで、“敦鳳”も“小福子”も〈結婚経験者〉という属性を有することでは共通してい

る。しかし、結果状態が現在に存在しているか否か、つまり結婚している状態を現在有するかどうかということによって、それぞれの現在の属性を異にし、それにより、それぞれの現在の状況との関連性が成立するのである。

(26)では“-了”を用いて、敦鳳は現在結婚している状態にあり、誰かの夫人であるという属性を有することを表している。それにより、〈敦鳳が楊夫人に何も聞かず、楊夫人の不倫の話について興味がなくなっている〉という現在の状況との関連性が成立している。それに対し、(27)では“-過”を用いて、小福子は現在婚姻が終わっている状態にあり、離縁された女であるという属性を有することを表している。それにより、〈小福子が白房子(売春宿)にいるに違いない〉という現在の状況に対する推論を裏付けることができるのである。(26)“了了婚”も(27)“嫁過人”もいずれも、参照時の状態に対して原因説明的な役割を果たしている。しかし、(26)では、状態パーフェクトとしての“-了”は、〈結果状態が現在存在する〉属性を表す。一方、(27)では、動作パーフェクトとしての“-過”は、〈結果状態が現在存在せず、影響というような広い意味での結果としての状態が現在存在する〉属性を表すのである。

この2例の“-了”と“-過”とは互いに置き換えにくい。(26)で“-過”を使うと、敦鳳の婚姻が終わっていることを意味し、現在の状況との関連性が成立しにくくなる。(27)の“-過”を“-了”に置き換えると、“-了”は不連続性を意味しないため、事象の成立を捉えた途端、後続の結果状態を含意することになる。さらに、結婚している結果状態は、比較的長く続く安定した状態である。そこで、(27)で“-了”を使うと、現在小福子が結婚しており誰かの夫人である、というように読まれてしまう。その結果、小福子が白房子にいるに違いない、という現在の状況についての推論との関連性が成立しなくなる。このように、動作パーフェクトでも、参照時における結果状態の有無によって“-了”と“-過”とを使い分けなければならないのである。

つまり、パーフェクトとしての“-了”も、パーフェクトとしての“-過”も、いずれも先行事象をその中に含んだ1つの状態・属性を述べることで共通している。しかし両者は、不連続性の有無という意味論的な違いにより、結果状態との係わり方を異にし、パーフェクトタイプを異にし、その参照時の状態・属性も異にしているのである。

次に、§4.2.では、不連続性と動作パーフェクトとの関係についてさらに考えてみたい。

4.2. 動作パーフェクトとの関係

§4.1.で述べたように、“-過”は不連続性を持つため、“-過”によって状態パーフェクトを表すことができない。言い換えれば、“-過”パーフェクトは総て動作パーフェクトである。しかし、総ての動作パーフェクトで“-過”が使えるというわけではない。ここでは、次の(28)-(32)を用い、“-了”の動作パーフェクトとの比較を通して、動作パーフェクトであるにもかかわらず、“-過”を使うと不適切となる文脈について考察したい。

(28) 「你會不會做糖醋蹄子？」「下午我才燉 {過/了} 一大鍋呢！」

(29) (経歴の紹介で)「我蓋 {過/了} 瀬戸大橋。」

(30) 「……你們來得正好，晌午我才燉了一大鍋糖醋蹄子，正愁沒人來吃。……」(??燉過) (白先勇《一把青》)

(31) 她牽著徐太太的手失驚叫道：「噯呀，我的乾小姐，才是個把月沒見著，怎麼你就瘦脫了形？」……

「親媽，你老人家是看到的，」徐太太流著淚斷斷續續的訴說道：「我們徐先生和我結婚這麼久，別說破臉，連句重話都向來沒有過。……誰知道打上月起，我們徐先生竟好像變了一個人似的。經常兩晚、三晚不回家。我問一聲，他就摔碗砸筷，脾氣暴的了不得。……」

(*變過)

(白先勇《永遠的尹雪艷》)

- (32) 有一晚，我跟幾個鄰居正在鬥牌兒，住在朱青對過的那個徐太太跑來一把將我拖了出去，上氣不接下氣的告訴我說總部剛來通知，郭軫在徐州出了事，飛機和人都跌得粉碎。（*出過事）

（白先勇《一把青》）

(28)–(32)はいずれも先行事象に焦点を置く動作パーフェクトの例である。しかし、(28)(29)は“-過”を用いても“-了”を用いても不自然に感じないのに対し、(30)–(32)は“-過”を用いると不自然に感じる。特に(31)(32)は非文になってしまう。その原因は何なのだろうか。ここで重要となるのは、〈文脈に含意されている結果状態〉であると考えられる。

まず、(28)(29)において、その伝達の焦点となるのは、話し手が以前に、豚足の甘酢煮を作ったことや瀬戸大橋を造ったことであり、そして以前に発生したそのことが現在において何らかの意義を持っている、ということである。その結果状態（出来上がった豚足の甘酢煮や瀬戸大橋）が完全に背景に隠れ、たとえ参照時にそれが存在していても重要な意味を持っていないため、不連続性が働かず“-過”を使うことができる。これは、動作パーフェクトの典型的な捉え方である。

一方、(30)(31)はいずれも事象時と共起することにより、先行事象に焦点を当て、動作パーフェクトとして捉えられている。しかしそれと同時に、それぞれの文脈が含意している結果状態の存在が重要な意味を持っている。

(30)では、「あなたたち丁度いいところに来たわ……食べに来る人がいなくなって悩んでたところなの」という誘いの文句により、また(31)では、徐夫人が今でもひどく悩んでいて、その姿が憔悴しきって変わり果てていることが描かれていることにより、それぞれの結果状態（豚足の甘酢煮が出来上がっている状態・徐氏が別人のように変わっている状態）が参照時においてもまだ存在していることが含意され、しかもそれによって参照時の状況との関連性が成り立っているのである。

また(32)では、その事象時には言及していないが、動作パーフェクトの意

味を表している。それは、次の理由による。1つは、その事象“出事”（事故を起こす）が、瞬間的に成立する無変化する事象であり、その事象の完結と共に直接的な結果状態を生じるわけではないため、状態パーフェクトとして捉えることができないからである。もう1つの理由は、事故を起こした場所（“在徐州”（徐州で））と共起していることによって、先行事象が焦点化されて動作パーフェクトの意味が強く現れているからである。しかしその一方で、「飛行機も彼も落ちて粉々になった」という後続の文により、“郭軫死了”（郭軫が死んでいる）という永久的結果状態が含意され、しかもそれこそがこのテキストが発せられた真意なのである。

(30)–(32)のように、結果状態が焦点化されていない場合でも、それが文脈で含意され、しかもその存在が参照時において重要な意味を持つ場合は、やはり不連続性と矛盾し、“-過”が使いにくくなる。

また、(30)は(31)(32)ほど“-過”との相性が悪くない。それは、(31)(32)に含意されているのが、行為の経験主の結果状態であるのに対し、(30)に含意されているのが、行為の対象の結果状態だからである。対象の結果状態は文脈の焦点の置き方により、際立たせて捉えたり目立たないように捉えたりすることができる。例えば、“他槍斃 {過/了} 很多人”（彼は多くの人を銃殺している）も、“他被槍斃 { *過/了 }”（彼が銃殺されている）も、対象に変化が起き、永久的結果状態を生じている。しかし、前者は“-過”で表せるのに対し、後者は“-過”で表せない。それは、前者が(28)(29)同様、対象（多くの人）が背景に置かれる能動文であるのに対し、後者が対象（彼）を主語に取り立てて前景に押し出す受動文だからである。

パーフェクトのうち、結果状態が前景に押し出されて焦点化され、それと同時に先行事象が背景に押しやられるのが、状態パーフェクトの典型的な捉え方である。それに対し、先行事象が前景に押し出されて焦点化され、それと同時に結果状態が背景に押しやられるのが、動作パーフェクトの典型的な捉え方である。(30)–(32)のような例は、タクシスの同時性を示さずに後退

性を示すことから明かなように、やはり先行事象が最も顕著で際立っており、それが第1の焦点となっている。しかし、その文脈上の結果状態が参照時に存在していることも重要な意味を持っている。つまり、その結果状態が背景に置かれながらも、陰でその力が強く働いているのである。

そして、状態パーフェクトに限らず、このように文脈上の結果状態が重要な意味を持つ動作パーフェクトも、“-過”が使いにくい。すなわち、不連続性が働くかどうかを考える際、単なる結果状態が存在するか否かという絶対的な要因よりも、むしろ参照時におけるその結果状態の重要度という認知的要因によって決まるのである。

以下に、“-過”の動作パーフェクトの基本的なタイプを3種類にまとめておく。

a) 結果状態がその事象によって生じない、かつ文脈上の結果状態を含意しないもの。例えば(15)がそうである。b) 結果状態が参照時以前に終了しているもの。例えば(27)がそうである。c) 結果状態が完全に背景に隠れ、参照時に存在していてもそれが重要な意味を持っていないもの。(28)(29)がそうである。

一方、“-過”とは対照的に、動作パーフェクトとしての“-了”は不連続性に制約されないため、参照時における結果状態の存在を容認するのである。

5. おわりに

前稿劉綺紋 2000b では、“-過”がパーフェクトとして機能することを明らかにした。本稿は、前稿に引き続き、まず“-了”のタクシスの機能を分析することにより、“-了”が文脈によって、完結相として機能したり、パーフェクトとして機能したりすることを明らかにした。

そして、“-過”パーフェクトと“-了”パーフェクトとを比較した。“-過”パーフェクトと“-了”パーフェクトとの違いは、不連続性の有無による違いである。“-過”パーフェクトは不連続性に制約されるため、“-了”パーフェクトに較べてその意味はかなり限定される。状態パーフェクトはもちろんのこと、その文脈上で結果状態の存在が参照時において重要な意味を持っている動作パーフェクトは、“-過”によって表すことができない。

しかし、“-過”は不連続性に制約されて意味が限定されるため、“-過”の意味は文脈に頼らずとも明白であり、殆どの場合は動作パーフェクトとして機能するのである¹⁷⁾。そして、一般にいわれている経験にしろいわゆる完了にしろ、いずれもパーフェクトの下位概念であり、そのいずれの意味として解釈されるかは語用論的な知識によって決まる。例えば、“上週我去過國會圖書館”“我吃過米飯”の意味はいずれも文脈によって具現化される。

一方、“-了”パーフェクトは不連続性に制約されないため、様々な様相を呈する。“-過”によって表せないパーフェクトを“-了”によって表すことも可能である。さらに、“-了”はパーフェクトのみならず、完結相としても機能し、文脈情報によりその意味が異なる。すなわち、そのような要素を考慮しなければ、その“-了”の意味及び機能を明らかにできないのである。

最後に、“-過”“-了”に係わる共起問題について述べておきたい。従来、多くの先行研究において、経験の意味を表す“-過”はアスペクト助詞“-了”や語気助詞“了”と共起できず、完了の意味を表す“-過”はそれらと共起できる、としていた。しかし“-過”が、アスペクト助詞“-了”や、語気助詞“了”や、この両者を兼ねている“-了”（“了₁₊₂”）と共起した場合でも経験の意味を表しうることは、前掲(2)-(4)や(9)で見たとおりである。実は、“-過了”や“-過…了”は“-過”同様、不連続性に制約されるパーフェクトの形式であり、経験としての読みも完了としての読みも可能である。

また、“已經”について、先行研究の多くは“已經”が経験の意味を表す

“-過”と共起できないとしていたが、その反例は(5)(6)(9)で既に見たとおりである。“已經”は、共起する事象によっては、必ずしもパーフェクトを表すとは限らない¹⁸⁾。“已經”は、参照時における状態を中心に置き、それに先行する別の状態との関連性を意味する時間副詞である。§3.3.でふれたように、“已經…-過”は、単独の“-過”とは文中の時間的關係が異なりうるものの、やはりパーフェクトの意味を表す。当然ながら、経験もいわゆる完了も表しうる。このように、“-過”も、“-過了”も“-過…了”も“已經…-過”も、パーフェクトを表すといえる。それらの違いは、パーフェクトの下位範疇に属する問題である。

また、“-了”は“-過”に較べ、“已經”と共起することが多い。その原因は、以下のように考えられる。“-了”は完結相の意味もパーフェクトの意味も表しうるので、“已經”と共起している場合は、単なる完結相を表すのではなく、参照時の状態との係わりにおいてその事象を述べていることを意味するのである。それが、パーフェクトとしての“-了”が、“已經”と多く共起するゆえんである。

以上、“-了”パーフェクトと“-過”パーフェクトとの比較を中心に論じてきた。両者はいずれも、先行事象をその中に含んだ1つの状態・属性を述べる、というパーフェクトの基本的意味及び機能を有する。しかし、不連続性の有無という違いにより、両者は結果状態に対する係わり方が異なり、それぞれの参照時の状態・属性を異にする。それにより、それぞれが使用される最適な文脈が異なるのである。

〔注〕

- 1) 中国語の字体について、人名、書名、論文名は、引用した原典に基づき簡体字も使用する。その他のものは原則として繁体字を用いる。
- 2) Smith 1997の〈事象アスペクト〉とは、動詞と、主語を含めたその動詞の項によって組み合わせられた“verb constellation”(例えば、[Mary walk by the river])に内在するアスペクトである。5種類の事象のうち、Stative, Activity, Accomplishment,

Achievement は, Vendler 1967 の分類を受け継いだものである。また, Semelfactive を [-Static] [-Durative] [-Telic] という意味を持つ事象とし, これを [-Static] [-Durative] [+Telic] を意味する Achievement と区別している。さらに Smith は, Stative という static situation (静的事象) を “state” (状態) とし, 他の 4 タイプの dynamic situation (動的事象) を “event” (出来事) とする。なお, “situation” に相当する日本語の用語について, 劉綺紋 2000a, 2000b では〈局面〉という用語を充てたが, 本稿では〈事象〉を用いる。

- 3) Smith 1997 の〈視点アスペクト〉は, 文法的形態素によって表されるアスペクトである。視点アスペクトは, カメラレンズのフォーカスのように, 事象を特別な遠近法や焦点で捉えるのである (p.2)。また Smith では, 視点アスペクトの形態素 (viewpoint morpheme) が欠けている文 (すなわち, 完結相の視点アスペクトも不完結相の視点アスペクトも持っていない文) は, Neutral (中立相) の視点アスペクトを有するとし (p.77), 次のように定義している。“Neutral viewpoints are flexible, including the initial endpoint of a situation and at least one internal stage (where applicable).” (p.3)。
- 4) “completion” は Smith 1997 の用語であり, Chu 1976 では, “attainment of goal” という用語を用いている。
- 5) 本稿で引用した用例及びその日本語訳の下線は, 種類にかかわらず, 総て筆者による。
- 6) 呂叔湘 1980, 孔令达 1986, 刘月华 1989 などでは, いずれも “過₁” の意味を “(動作)完畢” とし, “-了” を “(動作)完成” とし, 両者を区別している。しかし, 両者に対応する日本語の用語は, 一般にいずれも〈完了〉と訳され, 区別されていない。例えば呂叔湘 1980 の牛島(監訳)がそうである。
- 7) いわゆる “了₁₊₂” とは, 動詞の直後でしかも文末に置かれている “-了” である。
- 8) 中山高志(訳)『駱駝祥子』(東京:白帝社, 1991)。
- 9) パーフェクトの意味を表さず, 単なる完結性を表す “-過” は, 継起的事象を示す従属複文の〈従属文〉にのみ現れる。例えば, “我洗過澡就睡覺”(私はシャワーを浴びてから寝る), “他吃過飯就出了門”(彼のご飯を食べてから出かけた)などがそうである。この場合においては, “-過” 本来が持つ SitT < RT というテンポラルの意味が取り消されている。しかし, “*我洗過澡就睡過覺” “*他吃過飯就出過門” がいえないことから明かなように, “-過” はこのような継起性を示す従属複文の〈主文〉には置けない。文法範疇としてのテンスがない中国語では, 単なる完結相が主文に置かれた場合, それが単純過去 (Simple Past) というテンスの意味をも表すことになる。例えば, 単なる完結相を基本的意味の 1 つとしている “-了” がそうである。単なる完結相も “-過” の基本的意味の 1 つであるならば, それを主文に

置いたら、自然に単純過去の意味を表し、非文にはならないはずである。ところが、“-過”を用いるとそれが非文になる。それは、“-過”がこの場合、 $SitT < RT$ というテンポラルの意味をも持っているからである。そこで、 $SitT = RT$ という単純過去の時間的關係と矛盾が起きてしまうのである。このように、単なる完結性を表す“-過”は、継起性を示す従属文の〈従属文〉にのみ現れるため、単なる完結相を“-過”の基本的意味の1つということとはできない。つまり、“-過”の視点アスペクトは完結相であるが、しかし殆どの場合、テンポラルの意味をも合わせて持っている、ということである (Smith 1997; 劉綺紋 2000b 参照)。

- 10) パーフェクトのこのテンポラルの意味は、Reichenbach 1947 によって定式化されたものである。
- 11) これは春木 2001 による、フランス語の語りの「複合過去が、過去の事態をその中に含んだ一つの状態・属性を述べ」る、という説明に基づく。
- 12) 状態パーフェクトは“Resultative”(結果相)とも呼ばれる (Nedjalkov & Jaxontov 1988; Jaxontov 1988; 梁紅 1999 など)。また Маслов 1984 では、やや特殊なタイプとして包含パーフェクト (Inclusive Perfect) を挙げている。これは、McCoard 1978 の“Continuous Perfect”に相当する。
- 13) 事象に内在するアスペクト的意味成分のうち、〈終わり〉の規定と〈変化〉の有無とを別扱いする研究に森山 1988 がある。終わりが規定されていても無変化の事象について、森山 1988 では、〈一瞥する〉のような瞬間的に成立する事象と、〈『鼻』を読む〉のような持続過程を持つ事象とに分けている。前者について、Smith 1997 では、[knock at the door][hiccup]などを例として挙げ、Semelfactive とし、変化を含む Achievement とは区別している。しかし、後者について、Smith 1997 は、Vendler 1967 同様、変化を含む Accomplishment と同じように扱っている。その結果、次のような問題が生じている。“吃一頓飯”(一回の食事をとる)、“看一本書”(一冊の本を読む)などにおいて、“-過”の不連続性が働かないのは、Smith 1997 では、これらの事象が生じる結果状態が永久的だからであるとする (p.267)。しかし、永久的結果状態を生じる事象であるならば、不連続性が働くため“-過”と共にできないはずである。例えば、“*爺爺病死過”(祖父は病死している)とはいえない。実は、“吃一頓飯”などにおいて不連続性が働かないのは、これらが完結しても、変化せず結果状態を生じないからなのである。このように、終わりの規定と変化の有無とを別扱いすべき、という森山 1988 の指摘は、日本語のみならず、中国語においても極めて重要である。
- 14) 動作パーフェクトという用語の中の〈動作〉とは、一般に動作と称される動的事象に限らず、静的事象をも含めたあらゆる先行事象である。
- 15) “已經”は、参照時の状態とそれに先行するもう1つの状態との関連性を表す時

間副詞である。先行事象と共起した場合は、パーフェクトの意味を表す。例えば、“李爺爺已經來過日本”（李おじいさんは既に日本に来たことがある）がそうである。また、ある先行状態から参照時の状態への推移や変化の意味も表す。例えば、“我已經在寫了”（私はもう書いているところだ），“我們已經要走了”（私たちはもう行く），“到了三月，臺南已經不冷了”（三月になったら、台南はもう寒くない）などがそうである。

- 16) 語気助詞“了”について、Li *et al.* 1982 が“Currently Relevant State”と規定したように、その意味は、参照時における状態に重点を置き、その状態と別の状態との関連性を表す。その別の状態とは、私見によれば、参照時に先行したり（例えば、“他出門了”（彼は出かけている））、参照時に後続したり（例えば、“那我登機了，你要保重”（じゃ、搭乗するから、体に気を付けて））、参照時と同時であったり（例えば、“小寶算是很幸福了”（宝ちゃんは十分幸せなのよ））する。つまり、語気助詞“了”はパーフェクトの意味も見通し相（Prospective）の意味も表しうるのである。
- 17) 注9参照。
- 18) 注15参照。

〔参考文献〕

- Chao, Yuen Ren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley: University of California Press.
- Chu, Chauncey C. 1976. Some Semantic Aspects of Action Verbs. *Lingua* 40.
- Comrie, Bernard. 1976. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 高名凱 1957. 『汉语语法论（修订本）』（北京：商务印书馆，1986）
- 龚千炎 1995. 『汉语的时相时制时态』（北京：商务印书馆）
- 春木仁孝 2001. 「MOURIR の時制——「語り」における複合過去の機能——」（『現代フランス語のテンス・アスペクト・モダリティー』大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科）
- Hopper, Paul J. (ed). 1982. *Tense-Aspect: Between Semantics & Pragmatics*. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.
- Jakobson, Roman. 1957. Shifters, Verbal Categories, and the Russian Verb. In L. R. Waugh and M. Halle (eds), 1984. *Russian and Slavic Grammar*. Berlin: Mouton Publishers.
- Яхонтов, Сергей Евгеньевич. 1957. *Категория Глагола в Китайском Языке*. Ленинград: Издательство Ленинградского Университета. (橋本萬太郎(訳) 『中国語動詞の研究』東京：白帝社，1987)

- Jaxontov, Sergej Je. 1988. Resultative in Chinese. In V. P. Nedjalkov (ed), 1988.
- 影山太郎 1996. 『動詞意味論』(東京:くろしお出版)
- 菅野裕臣(訳) 1992. 『動詞アスペクトについて II』(学習院大学東洋文化研究所調査研究報告 35)
- 孔令达 1986. 「关于动态助词“过₁”和“过₂”」(『中国语文』1986年第4期)
- 工藤真由美 1995. 『アスペクト・テンス体系とテキスト——現代日本語の時間の表現——』(東京:ひつじ書房)
- Li, Charles N., Sandra A. Thompson, & R. McMillan Thompson. 1982. The Discourse Motivation for the Perfect Aspect: The Mandarin Particle *LE*. In P. J. Hopper (ed), 1982.
- 梁紅 1999. 「中国語の結果相とパーフェクト」(『中国語学』1999年第246号)
- 劉綺紋 2000a. 「中国語のパーフェクトに関する一考察——“-過”と“-了”を中心に——」(『日本言語学会第121回大会予稿集』)
- 劉綺紋 2000b. 「“-過”形式のパーフェクト」(『中国研究集刊』第27号, 大阪大学中国学会)
- 劉綺紋 2002. (印刷中) 「状態パーフェクトとしての“-著”」(『大阪大学言語文化学』第11号, 大阪大学言語文化学会)
- 刘勋宁 1988. 「现代汉语词尾“了”的语法意义」(『中国语文』1988年第5期)
- 刘月华 1989. 「动态助词“过₁”“过₂”“了₁”用法比較」(『汉语语法论集』北京:现代出版社)
- 吕叔湘(主编) 1980. 『现代汉语八百词』(北京:商务印书馆)(牛島徳次(監訳)『中国語用例辞典』東京:東方書店, 1992)
- Маслов, Ю. С. 1978. К основам сопоставительной аспектологии. In 菅野裕臣(訳), 1992.
- Маслов, Ю. С. 1984. Об основных понятиях аспектологии. In 菅野裕臣(訳), 1992.
- Maslov, Jurij S. 1988. Resultative, Perfect and Aspect. In V. P. Nedjalkov (ed), 1988.
- McCoard, Robert W. 1978. *The English Perfect*. Amsterdam: North-Holland.
- 森山卓郎 1988. 『日本語動詞述語文の研究』(東京:明治書院)
- Nedjalkov, Vladimir P. & Sergej Je Jaxontov. 1988. The Typology of Resultative Constructions. In V. P. Nedjalkov (ed), 1988.
- Nedjalkov, Vladimir P. (ed). 1988. *Typology of Resultative Constructions*. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.
- 大河内康憲 1992. 「実現体としての「了」」(『中国語』1992年3月, No.386)
- Reichenbach, Hans. 1947. *Elements of Symbolic Logic*. New York: The Free Press. (石本新(訳)『記号論理学の原理』東京:大修館書店, 1982)

Smith, Carlota S. 1997. *The Parameter of Aspect*, 2nd edn. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.

杉山一也・劉綺紋 1998. 「中国語動詞のアスペクチュアルな意味の分析」(『岐阜経済大学論集』第32巻第2号, 1998年9月)

Vendler, Zeno. 1967. *Linguistics in Philosophy*. Ithaca: Cornell University Press.

王力 1943-1944. 『中国现代语法』(北京: 商务印书馆, 1985)

朱德熙 1982. 『语法讲义』(北京: 商务印书馆)